

プロジェクト IFRS のエンドースメント手続

項目 本日の検討の概要

1. 平成 26 年 2 月 3 日に第 8 回 IFRS のエンドースメントに関する作業部会が開催されている。本日は、当該作業部会における検討状況について議論をお願いしたい。
2. 「エンドースメントされた IFRS」を開発するにあたっては、IASB が設定した個々の会計基準等について、修正することなしに採択可能か否かを判断する必要がある。また、どのような項目について、ガイダンスや教育文書等の作成が必要かについても判断する必要がある。

これらの判断をするために、第 1 回から第 4 回の作業部会において、IFRS と日本基準を比較することにより「検討が必要な項目の候補」の抽出を行った。

第 5 回から第 7 回の作業部会では、「検討が必要な項目の候補」について、別紙のとおり詳細な分析の検討を行った。第 8 回の作業部会では、「検討が必要な項目の候補」について以下の残りの 2 項目について詳細な分析の検討を行っている（審議事項(2)-2）。

	基準	項目
1	(年度開示関連) IFRS 第 7 号「金融商品：開示」 第 40 項、第 41 項 IAS 第 19 号「従業員給付」 IFRS 第 12 号「他の企業への関与 の開示」第 12 項、第 21 項	リスク感応度分析 確定給付制度に関する開示 子会社・関連会社等の要約財務情報
2	(四半期開示関連) IAS 第 34 号「期中財務報告」	期中財務報告の範囲及び開示対象の期間 (財務諸表注記を含む)

3. 審議事項(2)-3 では、「検討が必要な項目の候補」の全体的な整理を行っている。
4. 審議事項(2)-4 では、第 7 回の作業部会で特に詳細な整理が要望されたリサイクリング、当期純利益の論点とのれんの非償却の論点のうち、リサイクリング、当期純利益の論点について検討を行っている。のれんの非償却の論点については、時間の関係で第 8 回作業部会では議論は行われていない。

以 上

(別紙)

	基準	項目
1	IAS 第 16 号「有形固定資産」	有形固定資産の再評価モデル
2	IFRIC 第 4 号「契約にリースが含まれているか否かの判断」	契約にリースが含まれているか否かの判断
3	IAS 第 36 号「資産の減損」	固定資産の減損の戻入れ
4	IAS 第 38 号「無形資産」	無形資産の再評価モデル
5	IAS 第 40 号「投資不動産」	投資不動産の公正価値モデル
6	IAS 第 41 号「農業」	生物資産及び農産物の公正価値測定
7	IAS 第 37 号「引当金、偶発負債及び偶発資産」	引当金の認識（修繕引当金を含む）
8	IAS 第 16 号「有形固定資産」	減価償却方法
9	IAS 第 16 号「有形固定資産」	取替法
10	IAS 第 16 号「有形固定資産」	耐用年数
11	IAS 第 12 号「法人所得税」	繰延税金資産の回収可能性
12	IAS 第 21 号「外国為替レート変動の影響」	機能通貨
13	IAS 第 21 号「外国為替レート変動の影響」	外貨建その他有価証券（外貨建債券）の換算差額
14	IAS 第 19 号「従業員給付」	短期有給休暇
15	IAS 第 1 号「財務諸表の表示」	財政状態計算書（貸借対照表）
16	IAS 第 1 号「財務諸表の表示」	損益計算書の段階別表示（特別項目の表示） （非継続事業の表示を含む）
17	IAS 第 10 号「後発事象」	修正後発事象の会計処理（会社法計算書類 監査報告書日後の取扱い）
18	IFRS 第 3 号「企業結合」	のれんの非償却
19	IFRS 第 3 号「企業結合」	企業結合の会計処理（全部のれん）
20	IFRS 第 10 号「連結財務諸表」	子会社の報告日が異なる場合の取扱い
21	IAS 第 38 号「無形資産」	開発費の資産計上
22	IAS 第 19 号「従業員給付」	過去勤務費用
23	IAS 第 19 号「従業員給付」	退職給付に関する再測定部分
24	IAS 第 32 号「金融商品：表示」	金融負債と資本の分類
25	IAS 第 39 号「金融商品：認識及び測定」	金融資産の減損（償却原価で計上されている金融資産）

審議事項(2)-1
EI 2013-60

	基準	項目
26	IFRS 第9号「金融商品」	資本性金融商品のOCI オプション
27	IFRS 第9号「金融商品」	投資信託の受益証券へのOCI オプションの適用
28	IFRS 第9号「金融商品」	公正価値オプションに指定された金融負債の自己の信用リスク
29	IFRS 第9号「金融商品」	非上場株式の公正価値測定

以 上